

平成 18 年度 第 1 回評議員会議事録

期 日 平成 18 年 4 月 23 日 (日) 13:00 ~ 15:00

場 所 札幌中島体育センター

議 事

1 . 平成 17 年度事業報告について

(各委員会の委員長から活動報告があった)

1.1 強化委員会

(成年北海道代表)

- ・ 東日本都道府県対抗大会では、東北・北海道大会で第 2 代表を勝ち取り、本大会に進出したが 1 回戦山形県に 14-32 で敗れ、敗者戦で宮城県に 34-36 と惜敗したが、若手を中心としたチームは一戦一戦進化して行った。
- ・ 強化合宿を 8 月北見市で、10 月札幌市で行った。
- ・ 国体は、10 月 22 ~ 24 日の日程で岡山県美作市において開催され、三重県に 0 - 83 で敗れた。

1.2 レフリーソサエティ

- ・ レフリーの絶対数が足りなく、割付が厳しかった。
- ・ 地域のレフリーが少なく、高校指導者などの高齢化が表れてきている。人数及び資質ともに不足しており、各支部においても育成をお願いしたい。

1.3 コーチソサエティ

- ・ 平成 18 年度からコーチ資格者がいないチームは登録できないようになった。今年度は講習会に全力をあげた。
- ・ 各委員会などと連携し北海道ラグビーコーチ体制を推進して行きたい。

1.4 競技委員会

(北海道選手権大会)

- ・ 今年の運営において胆振支部、空知支部の協力が得られた。
- ・ 安全対策委員会によるマウス・ガード装着実態のアンケート調査が実施された。
- ・ 安全対策、コンディション管理対策を行ってきたが重症事故による死亡があり残念であった。今年度は、前年度を踏まえ安全に実施したい。

1.5 普及育成委員会

- ・ 北海道中学生強化合宿はメニューを明確にしてやれたのが良かった。
- ・ 北海道中学生大会は 4 校が一同に会して例年になく賑やかな大会となった。また、新聞に取り上げられ中学ラグビーをアピールできた。
- ・ 早稲田大学対立教大学の前座試合は、観客に北海道のミニやジュニアラグビーを充分アピールできたことがよかった。年度当初から運営についての話し合いが充分されなかったことが課題である。
- ・ 今年度は 4 地区からの代表で北海道ブロック大会を行ったが、来年度からは 10 支部で予選を行い、北海道ブロック大会を実施することが決定した。ラグビーの普及という点でタグが良いと考えられる。盛んにしていきたい。

- ・ 1月に東京で行われた東日本中学生スクール大会で初優勝ができた。
- 1.6 高校委員会
- ・ 今年度より行われた全国高校合同大会は、有意義な大会であった。レフリーが足りなかった。また、早めに広報ができなかった。
 - ・ 新人戦大会は、大会が多く11月にずれ込んだ。
 - ・ 強化合宿は、チームリーダー及び指導者の研修の場となっており有意義である。
- 1.7 高専委員会
- ・ 5月に関東協会の高校委員会の中に高専のラグビーの普及を図る目的で担当部門が設けられた。
 - ・ 高校と連携をとって事業を進めて行く。
- 1.8 大学委員会
- ・ 強化講習会を、5月に夕張市で関東協会を通じて2名の指導者を招聘して行った。基本的動作の再確認とともに、新たな大学ラグビーの流れを受け止められた。
 - ・ セブンス大会と選手権大会に、スポンサーをつけて運営経費の軽減を試みた。
- 1.9 社会人・クラブ委員会
- ・ 北海道クラブ選手権大会は、東日本クラブ選手権大会の予選会を兼ねて行った。
 - ・ トップクラブリーグにおいて、9月25日に行われたタマリバ対北海道バーバリアンズの試合は、早稲田大学対立教大学の前座試合で行われ、観客が多く良かった。
- 1.10 メディカルコミッティ
- ・ 北海道選手権大会で起きた重症事故による死亡に関して調査依頼があったが個人情報の問題があった。
 - ・ 医務委員会総会に出席し、脱水、脊髄損傷などによる死亡事故の防止について意見交換を行った。
- 1.11 安全対策委員会
- ・ 北海道選手権大会で起きた重症事故による死亡についての経過とセカンドインパクトについて報告があった。
 - ・ 全ての大会に、ドクターを派遣できないが最大の努力を行う。
 - ・ プレイヤーは、頭部、頸部を鍛えることが大切である。
- 1.12 規律委員会
- ・ 本年度は、シン・ビン適用者が3名、退場者が1名となった。このような事が無い様に関係者が留意すべきである。
- 1.13 ゴールデンオールディーズ委員会
- ・ 発足して3年目になった。昨年は、有料試合の前日に委員会を開き競技役員として運営に参加した。
 - ・ 各支部において登録をしてほしい。
- 1.14 広報委員会
- ・ 協会情報の発信を行うとともに、報道機関とのコミュニケーション活動を行った。
 - ・ ミニ・ジュニア・タグラグビーなどについては小中学校や子供会などにも情報を発信する必要がある。

2. 平成 17 年度決算報告について

- ・ 会計担当理事から「平成 17 年度 事業報告並びに決算報告」資料に基づき、平成 17 年度収支報告について説明がなされた。
- ・ 日体協及び道体協からの補助金が 4 月に完了予定であるが、まだ、未納となっているため未収入金、未払い金扱いとしている。
- ・ 平成 17 年度のチーム登録数は、173 チーム 4,901 名で前年度に比べチーム数 2 チーム、人数 50 名減少している。
- ・ 会計監事から会計監査報告あり会計処理が適性に行われていることが報告され承認された。

3. 平成 18 年度事業計画について

- ・ 庶務担当理事から、事業計画について説明があった。
- ・ 道体協補助は、少年合宿補助がゼロ査定になるなど厳しい状況にあり、北海道協会の予算措置が増えるため緊縮財政をとる。
- ・ チーム登録が少なくなってきており、収入も少なくなってきている。
- ・ 収入源を確保していく策があれば提案してほしい。

4. 平成 18 年度事業予算について

- ・ 会計担当理事から、平成 18 年度収支予算書について説明があった。
- ・ 支出については、各委員会から出された要求に対して 1 次査定を行ったが赤字予算となったため、さらに、一律 1 割カットとしたことが報告され承認された。
- ・ 関東協会借入金の残額 4,000 千円を返済すると、800 千円が得られるため、完済までの 5 年間は緊縮財政の執行となる。

5. 説明事項に対する質問・意見等について

・ 旭川支部評議員

昨年からの大幅な登録数減少について、平成 18 年度ではどのような対策をとっているのか

- 規約（細則）を改訂し、支部の普及育成を強化するために普及育成委員会を置く
- U15 大会を行い、モチベーションを高めていく
- タグの普及を図る
- 各支部においても競技人口の減少についての対策を行ってほしい

・ 旭川支部評議員

「事業報告並びに決算報告」は、理事会・評議会の直前まで精査するために、印刷を行わないでコピーでも良いのではないか

- 理事会で協議する

・ 札幌支部評議員

収入増の対策として、北海道選手権大会において名刺広告を出す。場合によっては各支部にノルマを課す

- 理事会で協議する

6. 規約（細則）改定について

- ・ 庶務担当理事より、各支部における普及育成委員の設置に関する細則の改定案が示され承認された。
- ・ 本則の改訂は、関東協会の承認があるため細則で運用する。

7 . 役員改選について

- ・ 空知支部選出の今野 宏 理事が勇退され、坂東 秀紀 事務局長が後任となることが報告され承認された。
- ・ 今野旧理事、坂東新理事の挨拶があった。

8 . その他

- ・ 庶務担当理事より、関東協会通達の「レースレスボールの採用について」「試合に出場する選手にマウス・ガード装着の義務化について」「ラグビースクールコーチの登録料」について説明があり確認された。
- ・ 額賀安全対策委員から、「試合に出場する選手にマウス・ガード装着の義務化」について補足説明があった。
- ・ 庶務担当理事から、「ラグビーボール販売の特約契約」について説明があった。